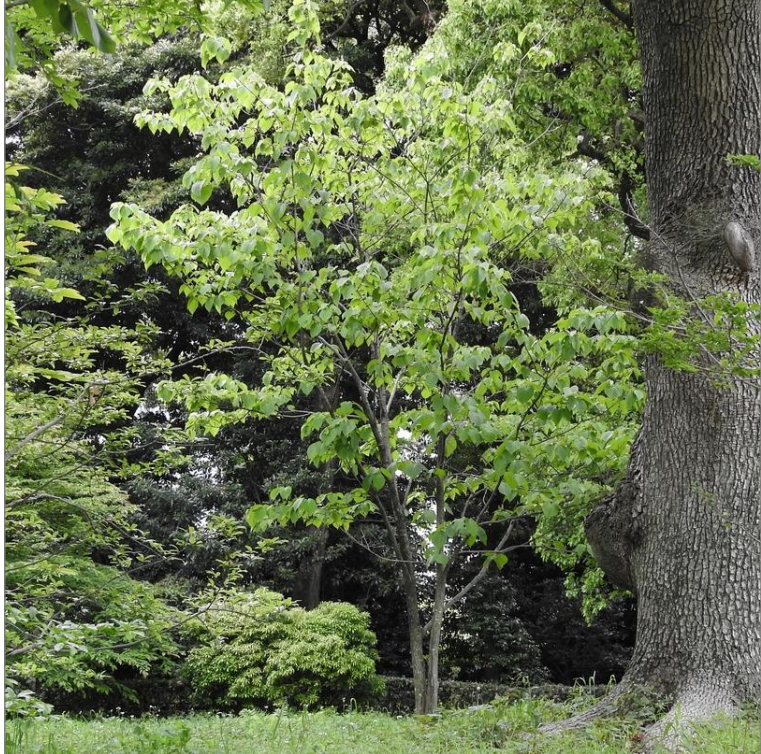




ヒトツバカエデ [一葉楓]

落葉 / 中高木 / 木本植物 / 在来種



科名 ムクロジ科 (APGⅢ)

特記 生長：やや速い

葉に切れ込みがなく、一見するとカエデには見えない。葉が丸いことからマルバカエデとも呼ばれる。魅力は、黄葉が美しいこと。秋田県・岩手県以南から紀伊半島東部の湿り気のある山地に自生する日本固有種。5～6月に上向きに黄色い花序を伸ばす。翼果も上向きにつく。



葉



花



黄葉



実

Memo

葉は、カバノキ科のウダイカンバに似ている。葉が対生する点、鋸歯がとがっていない点で見分ける。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
🌸	花期					■	■	■					
🍒	果実								■	■	■	■	
🍂	紅葉・黄葉										■	■	■
🌱	施肥	(早期に大木になるので施肥は控える)											
✂️	剪定	(春先の活動が早いため2月上旬までがよい)											

好みの環境				
日当たり	陽	○	○	陰
土壌	乾		○	湿
寒さ	強	○		弱
暑さ	強		○	弱
潮風	強		○	弱

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
					○		

ポイント

一番の魅力は秋の透けるような黄葉。適度に湿り気のある日照のよい場所では黄葉も美しくなる。淡い黄色の葉は、大きなハート形をしていることもあり、ひときわよく目立つ。生長が速いので注意。

剪定

大きな葉を疎(まば)らにつけ、枝別れも少ないため剪定し難い。自然樹形を保ちながら、邪魔になる枝は枝抜き剪定する。強い剪定をすると衰弱しやすいため、一般の庭木のような扱いはできない。

病虫害

ほかのカエデ同様に樹幹に穴をあけるテッポウムシ(カミキリムシの幼虫)とアブラムシに注意する。テッポウムシは幹下に木屑を見つけ次第駆除する。